The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	学生自身の自主性をよりひきだす情報処理教育支援へ
Author(s)	降籏, 大介
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2019, 19, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/73402
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　言

学生自身の自主性をよりひきだす情報処理教育支援へ

サイバーメディアセンター
コンピュータ実験科学研究部門
教授　降籏 大介

サイバーメディアセンターは、所属する研究部門教員の研究活動、直接の教育活動の他に、大阪大学の計算機環境、ネットワーク環境等のバックボーンを支えるという、外からは見えにくいけれども大学という大規模な組織の活動を支えるための大変重要な業務を担っています。

こうした直接的・間接的な活動はサイバーメディアセンター発足以前の前身組織から引き継いで発展してきたもので、その中に大阪大学に所属する学生の情報処理教育を支えるため、情報リテラシーに関する授業を行う、また、教育環境・仕組みといったものを用意・整備するという業務があります。これらには、授業「情報探索入門」の開講、学務情報システム KOAN、授業支援システム CLE (2012 年以前の前身は WebCT)、情報教育システム ECS、マルチメディア外国語教育用の CALL システム、ICT 支援型協働学習教室 HALC といったシステム・施設の整備・支援、そして、サイバーメディアセンター本館 1 階に設けたサイバーメディアコモンズの活用提供などが含まれます。

授業「情報探索入門」は、サイバーメディアセンターの複数の教員によるオムニバス型授業で、たとえば 2018 年度は、図書館、電子図書館の活用法、放送コンテンツの探索技術、データベースの仕組み、および理工学系論文検索、ネットワーク時代の情報の真贋、インターネットと社会(ビッグデータ編)、ネットワークを分析してみよう、教育コンテンツの検索と再利用、画像検索のしくみ、ICT 技術の医学・生物学への応用、サイバー・フィジカル・システム、外国語と情報処理技術、外国語教育における e-Learning の活用、インターネットの仕組み、TeX を使った文書作成技法といった題目の授業回が予定されており、充実した内容となっています。基礎的な情報を取得するという入門的な内容のみではなく、情報を分析して応用へつなげる発展的な内容までが含まれていることがよくわかります。

そして、先の KOAN から始まる 2 つのシステムは授業の登録情報などの支援や授業内容そのものの提供、教員や同級生との質疑応答やディスカッション環境を提供する web サービスとしてのシステムです。そのあとの 3 つは教室や PC 機材といったハードウェア機材も含む総合的なシステムの提供で、端末教室の環境整備をすすめるとともに、教室に直接赴くのと同等の環境をネットワークで実現する BYOD システムを提供したり、一部機材を iPad にすることでモビリティを確保するなどの工夫が加えられています。また、サイバーメディアコモンズは、授業や研究集会に利用できるビジュアライゼーションラボラトリーをメインとし、他に 3D プリンタや大型プロッタ、ミーティングルームといった施設、機材の提供を行っています。

こうして挙げたことから、サイバーメディアセンターの情報教育支援が多岐にわたり大変充実しているものであることがわかりますが、重要なのはその充実度だけではありません。これらの情報教育支援が、それを利用する学生と「よりインタラクティブ」に相互

作用する形を重視していること、つまり、学生自身により自主性を持って学習・研究に臨んでもらうことを目指して発展してきていることがみてとれるのです。web を用いたシステムは教員と学生の相互のやりとりを推進し、BYOD や iPad の導入は学習の場を教室の外へ広げる多様化を促し、サイバーメディアコモンズは 3D プリンタなどの通常触れがたい機器でなにかを作る経験を提供する。IT 技術の進歩やそれに伴う IT 機器やソフトウェアの普及、教育内容の高度化といったことを考えると、この方向性はまさに正しい方向であることは確かです。このように、これからもサイバーメディアセンターは学生の自主性をより引き出す方向へと情報教育支援を進めていくでしょう。